

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月31日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 4271401814 | | |
| 法人名 | 有限会社 みらい | | |
| 事業所名 | グループホーム みのぶの郷 | | |
| 所在地 | 長崎県南島原市有家町大苑1967番地 (電話) 0957-82-1113 | | |
| 評価機関名 | NPO法人ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構 | | |
| 所在地 | 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年7月23日 | 評価確定日 | 平成19年8月17日 |

【情報提供票より】(H19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 18 人 | 常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 | 4.85 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造平屋造り | | |
| | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 10,500 円 | その他の経費(月額) | 7,500 円 |
| 敷金 | 有(円) 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 100 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 7 名 | 女性 12 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 2 名 |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 5 名 |
| 要介護5 | 4 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 80.6 歳 | 最低 66 歳 | 最高 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------------|
| 協力医療機関名 | 菜の花クリニック、泉川病院、池田病院、島原保養院 |
|---------|--------------------------|


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の静かな場所にゆったりと建設され、駐車場や芝生の部分にゆとりを待ち、落ち着いた雰囲気のあるホームである。代表が両親と地域の事を考えて開設された事で、「利用者本位」を理念として、如何なる時も入居者を主体として、介護度の高い人の受け入れを取り組み、提携医療機関の協力や医療連携により、安心した生活を提供されている。施設長はグループホームケア研究会等のリーダー的存在で、積極的に地域に根ざしたホームを目指し、職員の質の向上から資格取得に前向きで、様々な資格を有した職員による、高度なケアをされている。又、入居者は穏やかにベンチで庭を眺めておられた。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価のねらいや活用方法を理解され、評価後は全職員でミーティングを実施し、質の確保に取り組まれているが、計画的に実施する意味での改善計画シートの作成が無い。改善項目の分析や実行状況の記述への取り組みが期待される。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目の変更により、早急な記述であったため職員全員による自己評価が困難であり、施設長による自己評価である。評価項目を検討することで、日頃のケアの見直しや職員の意識向上のためにも、全員で取り組まれる事が期待される。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回行政代表・地区の代表・家族の代表・施設長・管理者・職員代表の参加により運営推進会議が開催されている。内容は入居者の状態報告(イニシャルで記名)、ホーム内の様々な取り組み、毎月実施されている避難訓練の状況等を報告し、モニターとしての役目になってもらっている。</p> |
| | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>重要事項説明書に相談・苦情の受付体制を明確にし、ホーム内に掲示と意見箱を設置し、意見の聴取に配慮されると共に、入居者の様子やホーム内での出来事を家族へ電話や「みのぶ便り」で報告を行っている。密に連絡を取る事で、気軽に要望等が言える関係を確立し、要望は支援経過に記述し運営に反映している。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>1年間の行事・職員構成・ホーム内のエピソードを織り込んだ「みのぶ便り」を地域やデイサービスの利用者や入居者の家族に配布している。又、地域の中学生の体験学習の受託や年1回の敬老会への招待(18年度は約100人が参加)等、地域と密接に関わりを持つ為の取り組みをされている。</p> |

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | かつて利用者の方々の努力により現在の暮らしができることに感謝すると同時に、利用者第一で地域の中で根ざした、可能な限りの支援を受託できる事を前提に、事業所の方針や理念をつくりあげている。 | | |
| | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 介護における理念を「利用者本位」として、全職員が合言葉になるよう、毎朝のミーティング等で共有を図り、日々の介護に活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 「みのぶ便り」を家族のみでなく、地域やデイサービスの利用者に配布、地域の中学生の体験学習を受託、年1回の敬老会に招待(18年度は約100人参加)等、地域と関わりを持つ為の取り組みをされている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価のねらいや活用方法を理解し、評価後は全職員でミーティングを実施し、質の確保に取り組まれているが、改善計画シートの作成や、今年度は評価項目の変更等から職員全員で自己評価に取り組むことをされていない。 | | 評価後は問題点や取り組みを計画的に実施する意味での改善計画シートを作成され、自己評価は職員の意識向上を兼ねて、全員で取り組まれる事に期待したい。 |
| | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催し、入居者の状態報告(イニシャルで記名)、ホーム内の様々な取り組み、外部評価の結果、避難訓練の状況等を報告し、モニターとしての役目になってもらっている。 | | |

グループホーム みのぶの郷

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|------|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村とは管理者がケア研究会の役員である面から積極的な情報提供と共有を図っているが、広範囲なため密接な連携にまで至っていない。 | | 市町村の方と地域の施設が参加できる、ホームの周辺地域における小規模な連絡協議会を開催され、更に密接な関係を確立され、質の向上に取り組まれる事に期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホームの様子を報告する「みのぶ便り」や、家族の訪問時に口頭で入居者の様子を話したり、必要時は電話により心身の状況の変化を伝えている。問題発生時は詳細に報告を実施している。又、金銭管理は(立替払い)基本的に実施していない。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書に相談・苦情の受け付け体制を明確にし、ホーム内に掲示と意見箱を設置し、意見の聴取に配慮されている。気軽に要望等が言える関係を確立し、要望は支援経過に記述し運営に反映されている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員のストレスの軽減を図り、関連法人内での異動や退職を極力避ける事で、入居者と馴染みの関係から安心したケアに配慮され、利用者にとって一番良い方向へ導く取り組みがされている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員全体が研修や会議に参加する機会(南島原市ケア研究会の開催会場が併設のディサービスで実施)が設けられ、職員の資格取得の為の勉強会の開催等、職員育成がされている。又、有資格者が多く、様々なサービスを提供している。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 前述のケア研究会や風船バレー大会や職員ミニバレー大会参加等、他ホームとのネットワークづくりができ、ドライブ途中で立ち寄り、情報交換により質の向上が図られている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|--|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>ディサービスから入所のケースもあるが、入居者が安心して納得する取り組みとして、施設見学・体験入所・自宅訪問・家族を交えた面談等、利用者の心身に依りて配慮されている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>年長者であると共に、現在があるのは利用者達先輩たちのおかげである事を念頭に置き、地域の世間話・歌・縫い物等、入居者とコミュニケーションを取りながら共同生活に向けた関係作りを築いている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>利用者基本情報やケース記録に書き込んだり、日頃の会話の中から利用者の意向の把握をし、ケアにあたっているが、生活歴を職員全員が把握するためのフェイスシートがなく不十分である。</p> | | <p>入居者の生まれてから現在に至る生活歴が把握できるフェイスシートを、年代・好き嫌い・できる事・できない事を織り込み、職員全員が共有できる物を作成される事を期待する。</p> |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>家族や本人の意向を取り入れながらアセスメントを実施し、一人ひとり個別に、サービス内容を詳細にできる事を取り入れて目標を立て、少しずつ達成する介護計画が作成されている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>定期的(6ヶ月・3ヶ月)や状態変化に伴う見直しを実施し、ケース記録に介護計画の目標を記述した書式にすることで職員間で共有している。ケアプランに対するモニタリングと評価を実施し、介護計画の遂行状況を把握している。</p> | | |

グループホーム みのぶの郷

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者のそれぞれの状態に応じ、医療連携・病院受診や入院回避・早期退院・医療処理を受けない生活の継続・重度化に伴う終末期の入院回避等、多機能性を活かした支援が実施されている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者の希望に沿った医療機関への受診と、ホームとの提携医療機関と密接な関わりを持ち、往診や通院を選びながら実施されている。又、24時間協力体制を確保し、看護師職員を配置し、確実に取り組まれている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 開設当初から取り組みをされており、現在も重度化の入居者がいる。介護計画の中に医師の指示を取り入れて作成し、本人や家族の意向を聞きながら、事業所が対応できる最大の方策をチームで話しあっている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者を傷つけない、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮し、個人情報保護に関する掲示がされている。職員には、尊厳に繋がる取り組みとして、プライバシーに関する研修を実施している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ここでの生活の主人公が誰であるかを常に念頭に置き、入居者には可能な限り自分でもらいながら、事業所の都合に合わせることなく、柔軟な取り組みを実施している。 | | |

グループホーム みのぶの郷

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|-----|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一部の入居者は食事に関する手伝いができているが、重度化の入居者が多く食事介助が必要なため、職員は同じ食事をされているが、入居者と同じ食卓を囲むことはされていない。 | | リスク管理が手薄になる事を考慮し一緒に食事をされていないが、入居者の状態変化に伴い、一緒に食卓を囲む意味での食事体制(手すきの職員のみでも)を検討され、今後の取り組みに期待したい。 |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 清潔保持に心がけ、普通入浴者は週3～4回(毎日の希望も可能である)特浴者は週2回されている。入浴拒否者は殆んど無く、バイタルチェックを行い入浴を楽しんでいる。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の準備・後片付け・新聞折・お盆拭きとできる事はしてもらい、活力を引き出す楽しみごとや役割を取り入れながら、メリハリのある生活に向けた支援をされている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 月1・2回はドライブに行き、入居者の希望を取り入れ、墓参り・散歩等をされている。又、広い庭を眺められる玄関ポーチにベンチを置き、入居者の外気浴を兼ねたコミュニケーションの場所として活用されている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵をかけない事をチームで取り決め、外出傾向や利用者の把握等を職員間で共有し、必要に応じて職員が1名つく事で鍵をかけない為の取り組みをされている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 地域とは協力体制が確保されており、年2回消防署の立会い火災訓練を実施し、毎月、避難訓練を行っている。又、消火器・スプリンクラーを設置し、避難路を図式化し、防災マニュアルを作成されている。備蓄として水をタンクに貯蓄されている。 | | |

グループホーム みのぶの郷

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|------|--|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 調理師を中心にバランスと好みを中心に調理され、入居者の状況に留意し嚥下・咀嚼に配慮されている。食事量や水分量(必要な人のみ)の記録をとり、体重(月1回測定)に注意しながら、支援されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物全体は施設的であるが、中庭が広く芝生や池があり、季節を自然に感じる事ができる配慮が窺える。明るさや嫌な臭いや騒音は無く、居心地の良い空間への取り組みがされている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの準備品はベット・テレビ台・テレビであり、入居者は布団・時計・小物を持ち込まれているが、閑散としている。家族には常に持ち込みについての話はされているが、地域内の入居者が多く必要性を感じていないため、居室作りができていない。 | | 入居者の必要な品は元より、家族の訪問時に、過ごし易い居室作りをお願いされ、入居者の状態に合わせて取り組まれる事を期待したい。 |